

News I T活用セミナーを12月17日（水）に開催します

本セミナーは、地域企業がDXで未来を切り拓くための絶好の機会です。全国各地でDX推進を実践してきた3名が登壇し、自治体・金融機関・中小企業など多様な現場での事例をもとに、「経営改革につながるDXの進め方」「AI時代に地域企業が取るべき戦略」を具体的に解説します。

岐阜県笠松町CIO補佐官として数多くの自治体DXを支援する相澤謙一郎氏、地域新聞、官公庁など多様な業界のDXを支援してきた坂東大毅氏、一般社団法人MyDataJapan理事の青柳伸宏氏が、それぞれの立場からリアルな視点を提供。単なる効率化に留まらず、人・文化・ビジネスを結び直すDXの本質を学べます。

第266回イブニング研究交流会との併催です。詳しくは、当センターホームページを御覧ください。多くの方の参加をお待ちしております。

Thanks 県南技研の銘板が輝きを取り戻しました

2014年6月に(株)シグマ製作所花泉工場様が製作、寄贈された当センター正面玄関脇の銘板（題字：勝部修前一関市長）は、この度、同製作所の皆さんの手によって手入れが行われました。

設置から10年以上が経過し、センターを訪れる多くの人に見守られてきた銘板は、雨風にさらされる中で塗装が劣化など、古びてきていました。今回、同製作所のご厚意により、表面の研磨や再度の塗装を施していただいたことで、銘板は寄贈当時のような美しい輝きを取り戻すことができました。

銘板の手入れを提案し、自ら先導して作業にあたった同製作所の三浦敬部長は「当初の輝きを取り戻せてよかった。これからも文字通り看板として県南技研を見守ってもらいたい」と微笑んでいました。(株)シグマ製作所花泉工場様の温かいご厚意に、心より感謝申し上げます。



輝きを取り戻した銘板と作業にあたった(株)シグマ製作所花泉工場の三浦敬部長

Topics 一関市ものづくり人材育成事業
オーダーメイド分析講座 LC/MS 開催

10月9日(木)、高速液体クロマトグラフ質量分析装置(LC/MS)を用いたオーダーメイド分析講座を開催し、3名が参加しました。サンプルをお持ち込みいただき、それを使用して前処理と測定の実習を行いました。

参加者からは、「基本的な作業方法とデータの見方を実地で学べた」、「会社にある機器で見れなかった差を確認することができた」との声が聞かれました。



オーダーメイド分析の様子

Topics 一関市ものづくり人材育成事業
機器分析講座 GC/MS研修コース 開催

10月10日(金)、ガスクロマトグラフ質量分析計(GC/MS)研修コースを開催し、3名が参加しました。

参加者からは、「どんなサンプルを分析することができるのか、GC/MSの原理についても学ぶことができた」、「身近な試料(コーヒー)での実験で良かった」、「目にする事のない分析の手順を体験できた」などの声が聞かれました。



ガスクロ研修の様子



12月は
第3水曜日が・・・
イブニングの日

12月17日の開催です。皆様お誘い合わせのうえ、ご参加頂きますようお願いいたします。

★第266回産学官イブニング研究交流会へのご案内
(IT活用セミナーと併催)
場所:ホテル松の薫一関
日時:令和7年12月17日(水)
セミナーの部 15:00～17:45 無料
交流会 18:00～19:30 5,000円

10月18日(土)、一関工業高等専門学校 第一体育館を会場とし、第17回 地域企業情報ガイダンスを開催しました。

岩手県内、宮城県北、関東・関西方面から企業40社が出展。参加者は学生・生徒、保護者、官公庁関係者など140名以上となりました。

今年は、気になる企業へ立ち寄り易くなるようブース説明をフリータイム制へ変更。また、新たな試みとしてプレゼンエリアを設置。希望企業に5分間で自社PRを行っていただき、参加者の関心を高める機会を設けました。企業側でも、興味を持ってもらうために積極的な声掛け、事業をイメージし易くする展示物、ノベルティグッズ配布等の工夫が見られ、会場がより一層活性化しているように見受けられました。

参加した学生からは「今回は初めてフリー制でブースを回り、色々な方や分野に触れることができ、とても意義深い時間だった」、「お声を掛けて頂いて一番最初に行ったブースで、一対一で詳しく説明を聞くことができた」などの声が聞かれました。

出展企業、参加者および関係者の皆様のご意見・アンケートを参考に、今後もより良い場となるよう努めてまいります。心より御礼申し上げます。



開会/閉会セレモニーの様子



会場全体の様子



企業ブースの様子



プレゼンエリアの様子

～絶対湿度と相対湿度～

空気中には目に見えない水蒸気が含まれ、その量を示す指標が「湿度」です。湿度には「絶対湿度」と「相対湿度」があり、前者は空気1立方メートル中の水蒸気の質量 (g/m^3)、後者はその温度で含むことができる最大量に対する割合 (%) を示します。暖房を入れると室温が上がり、空気がより多くの水蒸気を保持できるため、同じ量の水蒸気でも相対湿度は下がります。これが冬の「乾燥」です。例えば、外の空気 (5°C ・相対湿度80%) を室内に入れて 20°C まで温めると、同じ水蒸気量でも相対湿度は約30%まで下がります。

一方で、ファンヒーターのような燃焼式暖房では、灯油1Lを燃焼させると約1Lの水が発生するため、部屋の湿度が一時的に上昇することもあります。ただし、二酸化炭素も同時に発生するため、換気が欠かせません。

湿度は体感温度にも影響します。湿度が高いと汗の蒸発が妨げられ、体から熱が逃げにくくなるため、暖かく感じます。湿度が10%上がると体感温度が約 $0.3\sim 0.5^\circ\text{C}$ 上がると言われています。

また、湿度は健康にも関係します。空気が乾燥するとウイルスを含む飛沫が長く空中を漂いやすくなり、より遠くまで広がるようになります。室内の相対湿度を40～60%に保つことで、快適性と感染予防の両立が期待できます。

